

増田中生 受験勉強 粘り強く 昆布のとろみに舌鼓



寄贈された合格祈願昆布を
みそ汁に入れて味わう生徒

横手市増田町の佐藤こんぶ店は1月31日、高校受験を控えた増田中学校の3年生40人に合格祈願のきざみ昆布を贈った。

生徒はみそ汁に入れて味わい、粘り強く勉強に取り組む決意を新たにしました。

佐藤こんぶ店の佐藤丈浩さん（57）が

同校を訪れ、北前船の交易を通じて昆布が普及した歴史などを解説。内陸部の横手では貴重な海の栄養が取れる食べ物として重宝されたほか、粘り気のある食感が住民の嗜好（しこう）に合っていたと紹介し、「昆布の力で受験当日まで健康を維持して頑張してほしい」と激励した。

生徒は配られた昆布をインスタントカップみそ汁に入れ、とろっとした舌触りを楽しんだ。佐々木勇綺さんは「とろみやうまみが加わって普段よりもおいしく感じる。自宅でもみそ汁などに加えて食べて、勉強のやる気を高めたい」と話した。

佐藤こんぶ店は1924年創業。2012年から毎年合格祈願昆布を増田中に寄贈している。贈ったきざみ昆布は、職人が昆布の魂を削る際に空中に舞い上がる様子から「飛翔」の商品名で売り出している。合格祈願昆布はこのほか、おぼろ昆布の「羽衣」も販売。2月末ごろまで製造する。（佐藤悠大）

（令和7年2月4日（火）秋田魁新聞より一部抜粋）